

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年2月3日

【評価実施概要】

事業所番号	1072700496
法人名	タクミ工業株式会社
事業所名	グループホームベルジ川場たやの家
所在地	群馬県利根郡川場村生品 1823-1 (電 話) 0278-52-3080
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成21年1月28日

【情報提供票より】(21 年1 月10 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 10 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	4.8 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,500 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	410 円	昼食 450 円
	夕食	440 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要 (1 月 10 日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	0 名	要介護2 5 名	
要介護3	1 名	要介護4 2 名	
要介護5	1 名	要支援2 0 名	
年齢	平均 82, 6 歳	最低 66 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ほたか病院 ほたか医科歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは家庭的で和やかな雰囲気の中で、利用者と職員は共に自然に暮らしている。一人ひとり役割があつて、食事づくり、洗濯物たため、掃除、食器洗い等をその日、その時の状況に合わせて職員と一緒に生活活動をしている。手打ちうどん、おやつ(蒟おやき等)づくり等を楽しみながらしており、一人ひとりが明るく、生き生きとした表情で穏やかに日々を送っている様子が見られた。一人ひとりの希望を聴いて(そば、寿司を食べたい、行きたい場所等)年間計画を立て個別支援にも取り組んでいる。地域へは積極的に利用者と共に出かけて交流する機会を作っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①運営推進会議を活かした取り組みでは、参加者は家族の他に地域民生委員が参加してくれるようになった。②現状に即した介護計画の見直しでは月1回のモニタリングは実施するようにしたが、定期的見直し期間については現状のままである。③鍵をかけないケアの実践は日常的な常態化から午前10時から夕食までは、安全面に配慮しながら鍵をかけない工夫に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価項目に対して、職員に意見を求め意見を反映させて作成をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催をし、事業所から利用者、活動状況等を報告し、参加者から意見や要望を聴いている。家族の夜間の面会時にホールの照明が点いてなく暗く感じたとの意見があり、照明は早めに消さずに置くように改善をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議に参加してもらい意見や要望等を聴き、運営に反映させている。家族等の来訪時には何でも話しやすい雰囲気づくりにも留意している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時に挨拶を交わす、近隣の畑仕事をしている方と話をし、老人会の協力で保育園児と芋苗を植える、収穫する、理髪店、ぶどう園、リンゴ園、文化祭、祭り等地域交流の機会を持ち連携を図っている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念を5項目掲げて、地域とのかかわりを意識した「地域社会と共に歩む家」と事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は月2回の会議や関わりの振り返り時にも、理念に触れ、確認しあい共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に挨拶を交わす、近隣の畑仕事をしている方と話す、老人会の協力で保育園児と一緒に芋ほりをする、文化祭、祭り、理髪店、ぶどう園、リンゴ園等地域の方とふれあいの機会をつくり、地域との交流をしている。道路清掃に利用者と職員が一緒に行い地域の貢献にも取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には職員に意見を求め、管理者が作成をしている。外部評価の結果について話し合い改善に取り組むようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催をしている。事業所から利用者、活動状況等の報告を行い、参加者から意見や要望等を聴いている。そこでの意見や要望等は運営に反映させるようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	議事録や書類等を窓口へ届けに行く等で、市町村担当者と連携を図っている。運営推進会議に担当者へ出席依頼をしているが欠席状況である。	○	地域密着型サービスの創設を機に市町村との積極的な連携が求められている。運営推進会議はその良い機会であり、担当者へ出席を引き続き依頼して行くようにしてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時に日頃の暮らしぶりや健康状態等の報告をしている。また、都合により来訪できない家族には電話で報告をしている。月1回、写真で本人の自筆で一言添えて送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加してもらい意見や要望等を聴き運営に反映させるようにしている。来訪時には何でも話しやすい雰囲気づくりに留意している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを防ぐために、できる限り職員の固定化を図り、馴染みの職員が支援するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には積極的に職員の段階に応じ参加をする機会を作っており、研修報告を行い職員全員で共有するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、情報交換、意見交換、研修会に参加し、同業者との交流をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族等に見学をしてもらい雰囲気を知ってもらうことや在宅、施設等に訪問し顔なじみになり安心して利用ができるようにしている。馴染まれない時はどうしたら落ち着いた生活が送れるか話し合い、本人の大切なものを持ち込むように配慮したことで落ち着いた生活が送れるようになった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	習字や生け花、植木作業、畑仕事、お茶の入れ方、昔の話や仕事などのことを教えてもらうことが多い。お互いが協働しながら和やかな生活を共に送り、支えあう関係づくりが築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で対話を通じて思いや意向の把握に努め、一人ひとりに添えるように努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聴き、反映させている。職員会議で情報交換を行い、意見やアイデアを反映させて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングを実施している。定期的見直しは6ヵ月～1年となっている。状態に応じて随時見直しをするようにしている。	○	安定している利用者の場合も、月1回のモニタリングの結果を活かし、本人、家族の意向や要望を確認してほしい。また、職員の意見やアイデアを反映させて定期的見直し期間の短縮をするようにしてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の状況に応じて、通院、理美容、行きたい所等の支援を柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医になっており、適切な医療が受けられるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する事業所の方針を契約時に説明を行い文章化されている。状態の変化に応じて、医師、家族、事業所等で話し合いを繰り返し、随時意思を確認し関係者が共有し支援をするようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応に留意している。記録物等の管理保管はきちんとされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら買い物や散歩、ドライブ、お茶会等、一人ひとりの気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援をするようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で野菜を育て調理の下ごしらえや配膳、下膳、食器を洗う等一緒に行なっているが、全職員が同じテーブルで食事を食べるのではなく1人だけである。手打ちうどんやおやつづくりを楽しんでいる。	○	食事づくりを大切な活動のひとつにしているので、食事を共に味わいながら楽しい雰囲気づくりに取り組むことを検討してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆず湯やりんご湯、レモン湯等を取り入れながら楽しみのある入浴支援をしている。基本的には週3回であるが、希望を聴いたり、タイミングに合わせ入ってもらうようにしている。状態に応じて清拭等も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえ、テーブル拭き、配下膳、食器を洗う、庭掃除、洗濯ものたたみ、買い物、花見、ドライブ、お茶会、花を生ける、外食、出前、カラオケ、おやつ作り等役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。一人ひとりの行きたい所の希望を聴き、年間を通して計画し実践し楽しみをつくっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の状態に応じて、散歩や庭掃除、買い物、戸外でお茶会、花摘、畑仕事等で季節に応じて、日常的に戸外で過ごすようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は午前10時から夕食まで、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回(昼間と夜間想定で)系列施設協力の下で利用者と職員共に行っている。運営推進会議内で地域の方へ協力を依頼している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立や食材は委託業者等に依頼して栄養バランスの取れた食事である。利用者の希望や好みに合わせて、食材を考慮し献立に工夫を凝らして食事が提供されている。食事量の記録をしている。水分量はおおまかに把握しているが記録していない。	○	一人ひとりの1日の栄養摂取量や水分量を記録し、職員が情報を共有するように取り組んでほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前にテーブルと椅子、中には季節の花が生けられ、階段の踊り場に観葉植物や鉢植えが置かれている。ホール内はソファが設置、利用者が生けられた花が家庭的な雰囲気があり、居心地よく過ごせる環境になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	人形、位牌、箆笥、寝具、遺書箱、テーブルと椅子、テレビ、家族写真、家族からの花の手紙、ぬいぐるみ等馴染みの物が持ち込まれ落ち着いて過ごせる環境に見受けられた。		